

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

睡眠障害の対応と治療ガイドライン 第3版

睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究会（内山真 日本大学医学部精神医学系 主任教授）
じほう、2019年6月25日発行

Minds 掲載 無

■1 大柴胡湯、柴胡桂枝乾姜湯、半夏厚朴湯、抑肝散、帰脾湯、酸棗仁湯、温経湯

疾患:

不眠症

有効性に関する記載ないしその要約:

『Q15 民間療法、漢方、サプリメントで睡眠薬の代わりになるものはありますか?』に対して、下記の記載がある。

『漢方薬で不眠症に保険適応とされているものは、大柴胡湯、柴胡桂枝乾姜湯、半夏厚朴湯、抑肝散、帰脾湯、酸棗仁湯、温経湯などがあり、これらにはハンゲ、サイコ、オウゴン、カンゾウ、トウキ、オウギなどの生薬が配合されている。多くは神経症や更年期障害にも有効とされており、自律神経系の活動や気分の安定化により睡眠促進効果を発現する。』

副作用に関する記載ないしその要約:

『漢方などは一般に副作用が少ないといわれているが、これは薬効成分の含有量が少ないためであり、多量に摂取すると、肝機能障害、腎機能障害、特にカンゾウでは低カリウム血症などの副作用が出現する。また、原料の植物に含まれている微量の物質や、製造過程で混入した物質による思わぬ副作用も起こりうる。』

■2 漢方薬

疾患:

過眠（副作用）

副作用に関する記載ないしその要約:

過眠が主訴の場合の症状の詳細な確認の項に、下記の記載がある。

『服用薬剤内容の確認: 睡眠薬、抗アレルギー薬、風邪薬、漢方薬などを内服していないかを尋ねる。』

■3 漢方薬

疾患:

更年期障害に伴う不眠

有効性に関する記載ないしその要約:

更年期障害に伴う不眠の治療の項に、下記の記載がある。

『不安やうつなどがある場合には、抗うつ薬、漢方製剤や心理療法などの併用が必要である。』

■4 抑肝散

疾患:

レム睡眠行動障害

有効性に関する記載ないしその要約:

レム睡眠行動障害の薬物療法の項に、下記の記載がある。

『パロキセチン、抑肝散、ドネペジルやプラミペキソール（ビ・シフロール）などの有用性も報告されている。』

<以上 1~4 の記載として>

備考:

不眠医療のステージと代表的なクリニカルクエスションの表中に、「CQ27 漢方薬やメラトニンも不眠症に効果があるでしょうか？」と記載されている。